明治150年＝近代天皇制を問う2.11反「紀元節」行動で講演する太田昌国さん
（2月11日、全水道会館）

談論暴発

知り合いに教えられて、『「ゼロトレランス」で学校はどうなる』（花伝社、2017年）という本を手に取った。プライベートな時間に「教育」のことなんか考えたくないのだが、広島が「日本におけるゼロトレランス政策（ZTP）の発祥の地」ということになってると聞いて心が騒いだ。これは子どもの「問題行動」の背景や意味を考えようとする姿勢と真逆に、規則を破った生徒に対し理由を問わず不寛容ゼロの態度で臨む方針のことで、2005年頃に文科省がアメリカから移入し、定着をはかっているという。

広島で高校教員をしている知人から聞いたのは、ノートでの「報告・申告」によって生徒の24時間を管理させられる状況だ。1999年に校長の自殺という結果に至った広島での日の丸・君が代の強制やその後の異常な人事異動から、今日のZTPまでの流れを私は知りたい。そしてかなり飛躍するが、平和教育が学校文化に圧倒的に占有されてきたことと、広島における「教育の過剰さ」とのつながりについて考えてゆきたい。

（田浪）

contents

事務局から
●第13期・第9号をお送りします。次号（10号）は3月30日に刊行予定です。
●13期の購読申込みがまだの方はよろしくお願いします。印刷判・郵送は4000円、PDF版・Eメールは3000円です。

福島原発事故から7年、安倍政権の原子力推進政策を打ち砕け!
3・21さようなら原発全国集会に結集を

■安倍政権の最も弱い環─原子力政策

1月22日、通常国会が始まり、安倍首相の施政方針演説では、憲法改「正」に意欲を見せ、北朝鮮の核・ミサイル開発の阻止などことさらに挙げ、日本を戦争できる国にしようとする姿勢が如実に示されていました。一方で待ったなしの福島原発事故の課題や行き詰り破たんに瀕している原子力政策については、一言も触れようとしていませんでした。唯一、「原発事故で大きな被害を受けた福島で、未来のエネルギー社会の姿をいち早く示し、世界の脱炭素化を牽引する」と述べただけでした。事故から7年近く経つ今でも5万人を超える避難者の窮状や進まぬ廃炉作業など、直視すべき福島原発事故の実態を無視しました。安倍首相の、自分に都合が悪いことには常に蓋をし、非を認めようとしない傲慢な態度は許しがたいものです。

先の衆議院選挙でも、野党側は原発問題を大きな課題として訴えましたが、安倍自公政権側は一切触れようともせず、争点から逃げていました。しかしその一方で、エネルギー基本計画の見直しを進め、原発推進路線をさらに推し進め、原発再稼働や核燃料サイクルの推進、原発輸出などに邁進しようとしています。

しかし各種世論調査でも明らかなように、脱原発を求める声は常に過半数を大きく上回っています。また司法の場でも伊方原発を差し止める広島高裁判決も出されました。核燃料サイクルについては、高速増殖炉もんじゅの廃炉、六ヶ所再処理工場の完工の延期など、つぎつぎと破綻・ほころびが見え、高レベル放射性廃棄物や解体原発の廃棄物処理などの問題も解決の糸口すら見つかっていません。安倍政権の原発推進政策は、矛盾をますます深めるものとなっています。戦争法や共謀罪、憲法改悪、辺野古米軍新基地建設などの反動的政策を次々と推し進めてきている安倍政権にとって、原子力政策は最も触れたくない政策課題の一つとなっています。国会での多数を背景にこれまで強権政治を推し進めてきた安倍政権にとっての弱い環としての原子力政策。そこを突き安倍政権を揺さぶっていくことが求められていると思います。

■進まぬ収束作業

福島原発事故から7年が過ぎようとするいまでも事故の収束作業は難航しています。汚染水問題では、汚染水対策の切り札として「凍土遮水壁」が稼働しましたが、当初言われていた効果は出ておらず、汚染水の流入の大幅低減とはならず、地下水の流入は続いています。あくまで流入量を減らすだけで、根本的解決にはなりません。むしろ増え続け、溜まり続ける汚染水の海洋放出の動きも見られ、今後、その動向を注視しなければなりません。

さらに廃炉に向けて最も難関と言われている溶融燃料(デブリ)の取り出しについては、非常に高い放射線に阻まれ、現時点でデブリの存在場所が一部確認できただけで、いまだ全部の分布状況や形状に関する情報は得られておらず、今後の作業が難航することは明らかです。ロードマップでは、41年~51年ごろ「廃炉完了」としていますが、すでにその計画はずれ込み、廃炉作業は今後も大きな困難が予想されます。

また経済産業省は、福島原発事故に関わる廃炉など事故処理にかかる費用が21.5兆円になると試算結果を昨年発表しましたが、これは2013年12月の見積もり(11兆円)のほぼ2倍となっています。あくまで「試算」であり、今後の条件や作業の進展具合によってさらに巨額の費用負担が避けられないことは明らかです。経産省は、これらの費用の一部について電気料金へ転嫁して回収しようとしています。結局、消費者にツケを回し、負担を強制しようとするもので、東電や政府推進側の責任と義務を安易に免罪するもので許せません。

■被災者を棄民化させるな

被災地福島では、5万人を超える被災者が今後も長期に渡って避難せざるを得ない状況に置かれたままです。震災(原発事故)関連死者数は2千人を超え、ふるさとの喪失と長期避難による鬱や自死者が増加しています。被災者の直面する困難と疲弊、未来への希望が見いだせないことなどが大きな原因となっています。

そのような中で、帰還困難区域を除いた、居住制限区域・避難指示解除準備区域などでは、住民の帰還を目指して除染作業が進められ、それに合わせて昨年3月末には、これまでの自主・自力避難者に対する住宅支援の打ち切りがなされました。これは被災者に、いまだ高い放射能が残る故郷に帰還するのか、避難し続けるのかの厳しい選択を迫るもので、ここには、被災者に寄り添う姿勢が全く欠けています。安倍政権が進めるこれらの政策は、福島原発事故の早期幕引きであり、被災者に対しては「棄民」政策とも言えるもので絶対に許せません。

打ち切りから一年近く経ちましたが自主避難し続ける被災者は、精神的にも経済的にも追い詰められています。さらに各地で裁判闘争が起こされています。今年3月には楢葉町の避難者の補償が打ち切られようとしています。さらにその後も避難解除と帰還の奨励とともに次々と補償が打ち切られようとしています。東京オリンピックに合わせ原発事故がなかったかのような動きが進むことは、事故の風化を招き、被災者をさらに追い詰めるものです。そのような流れに抗し、私たちは声をあげ、被災者と連携・連帯を強めることが求められています。

■3・21代々木公園へ大結集を——あげよう怒りの声を

さようなら原発1000万人アクションは、フクシマを切り捨てる安倍政権の原子力政策の矛盾を撃ち、原子力政策の転換を訴えるために、7年目の3・11を迎える3月21日に、今年も東京・代々木公園で「いのちをまもれ　暮らしを守れ　フクシマとともに——3・21さようなら原発全国集会」を開催します。この集会に多くの市民が結集し、福島原発事故の風化に抗し、被災者への連帯の声を上げ、ますます矛盾を深める安倍政権の原子力政策の環を断ち切るために、怒りの声を首都・東京に響かせましょう。

(井上年弘/さようなら原発1000万人アクション事務局)

「復興五輪」というオルタナティブ・ファクトはおことわり！
――「3・11と東京五輪」集会に参加を！

“The situation is under control”――（フクシマの）状況は統御されています。

2020年の五輪開催地を決めるIOC総会で安倍晋三は大見えを張った。そして「東京には、いかなる悪影響にしろ、これまで及ぼしたことはなく、今後とも及ぼすことはありません」と、福島ではなく東京は安全だと断言することで、原発被災者の心情をさらに逆なでした。その後の記者会見での質問に対しても「汚染水による影響は第一原発の港湾内の0.3平方キロメートル範囲内の中で完全にブロックされています」「福島の近海で私たちはモニタリングを行っています。数値は最大でも、WHOの飲料水の水質ガイドラインの500分の1であります。これが事実です」と答えた。だが汚染水は全くブロックされておらず、大海の汚染濃度に水道水の汚染濃度の基準を用いる（どんだけ希釈！）など、いま風に言えば「オルタナティブ・ファクト」である。

オリ・パラに関するオルタナティブ・ファクトは、パクリ・エンブレムや財政負担（当初の8000億円から2兆円超に）争いといった喜劇よりも、学校や役所のオリ・パラ事業による抑圧、再開発に伴う地域住民の追い出しや環境破壊、突貫工事による過労・事故死、障がい者の分断、ドーピングやパワハラ・性被害、「日の丸・君が代」など国家やビジネスのための勝利至上主義に追い詰められた自殺（古くは円谷幸吉さんから直近では住吉都さん）など、その悲劇には枚挙にいとまがないが、誰一人原発事故の法的責任を取らず、全国で再稼動が企まれ、いまだ万にのぼる住民が故郷を追われたまま、「自主」避難者は支援が打ち切られ、放射能の高線量地域への「帰還」が強制され、地域住民や収束作業員の被ばくが続き、地球規模で自然環境を侵し続けているなかでの「復興五輪」ほど、その悲劇性を象徴するものはないだろう。

私たちは、オリ・パラがもたらす悲劇を「災害」ととらえ、これまで先駆的に五輪反対に取り組んできた国内外の仲間と協力しながら、2020年東京オリ・パラがもたらす「災害」を批判し、五輪返上を訴えてきた。3月31日には佐藤和良さん（いわき市議会議員／福島原発刑事訴訟支援団長）と小出裕章さん（元・京都大学原子炉実験所）を招き、「復興五輪」という「五輪災害」の実態をひろく訴える集会をもつ。五輪という国家主義的商業メガイベントは、戦争や原発事故に次ぐ創造的破壊をもたらすと言われる。しかしそれが創造するのは平和に生きる権利ではなく、万人の万人にたいする闘争という社会でもなく、少数の万人に対する闘争という社会だ。この集会では「五輪災害おことわり！」という万人の声をあげ、平和に生きる権利に向けた復興を考えたい。

＊　＊　＊

3・11と東京五輪　～アンダーコントロール？ 復興？
日時：3月31日（土）13：15～
場所：文京区民センター・2A
資料代：500円

稲垣豊（東京オリンピック災害おことわリンク）

「新元号に反対する署名」を集めましょう！

「元号制度は、古代中国において、皇帝が時間を支配することを目的として作られたものです。「王」や「君主」の在位に合わせて暦を法律で変える国は、現在では日本しかありません。元号は「君主」の時間に民衆を従わせるための、本来的に非民主的な制度であるといえます」。

「元号を変更することによる様々なシステム変更によって、大きな混乱や事故、また経済的な損失がもたらされることは、「昭和」から「平成」への改元でも起きたことです。このような混乱をもたらす元号は無用の長物でしかありません。新しい元号を制定せず、元号制度を終わりにしてください」。

（「新元号に反対する署名」より）

＊　＊　＊

2019年5月1日の天皇代替わりにむけて、政府は新しい元号を2018年中に発表するとしています。

一昨年来、首都圏各地でさまざまなかたちで反天皇制の運動に取り組んできた私たちは、この新元号制定に反対する署名活動を皆さんによびかけます！

「昭和」の時代と比べれば、市民生活から元号は急速に姿を消しつつあります。インターネットでも元号不要論・不便論が公然と語られだしてきました。「最も生活に身近な天皇制」であるはずの元号と、民衆意識との乖離は着実に進んでいるのです。この天皇制の大きな弱点である元号制度を突くことを通じて、「終わりにしよう天皇制」の声を、共に、さらに広げていきましょう！

「8・8天皇メッセージ」から始まった「平成」代替わり反対闘争の重要な一環として、この署名運動に取り組んでいただけるようお願いします。目標は5000筆です。たくさんの仲間と共同できることを心待ちにしています。（2018/2/1）

（1）署名を集めて集約先や取り扱い団体までご送付下さい。
（2）運動の広がりを示すために、ご自身や、団体で取り扱い団体・個人になって、署名集約のハブになってください。
（3）街頭署名取りをぜひ計画してください。一緒にやる仲間が見つからない方は、下記いずれかの連絡先までお気軽にご相談ください。
（4）署名提出行動にご参加下さい。集まり具合や政府側の日程を見て、あらためて日程をお知らせしますので、ご参加ください。

●署名用紙は下記サイトでもダウンロードできます
→http://tennoout.hatenablog.com/

【「元号はいらない署名運動」呼びかけ団体】
■反天皇制運動連絡会　千代田区神田神保町1-21-7-2A 淡路町事務所気付　hanten@ten-no.net
■「日の丸・君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2　かながわ県民センター9Fレターケースno.333
■靖国・天皇制問題情報センター　新宿区西早稲田2-3-18-31 キリスト教事業所連帯合同労組気付
■天皇制いらないデモ実行委員会　立川市富士見町2-12-10-504立川テント村気付

三里塚管制塔占拠闘争40年　今こそ新たな世直しを!　3.25集会へ
あの日を語り継ごう

1、語り継ぐこと

1978年3月26日、40年前の午後1時、日本政府が揺れ動きました。横堀方面から空港に突入した青年たち、第9ゲートから空港に突撃した若者たち、それに呼応して東成田駅付近の集水口から這い出し管制塔に突入した私たち。成田空港管制塔が占拠されたのです。青年・学生の行動に政府が揺らぎ、時の首相（福田赳夫氏）は、世界に「成田空港の開港延期」を宣言し空港反対同盟農民に対し敗北を認めたのでした。

3月26日は、集められるだけの警察・機動隊を総動員した日本国政府が、農民と青年・学生に負けた日です。日本政府のその敗北は、反対同盟農民が十数年の月日を費やして闘い続けた結果でした。そしてその敗北は、自民党政府と闘う人々にとって、暗雲が途切れて差込んだ希望の光でした。

こんなことがあったことを語り継がなければなりません。どんなに強固で支持基盤のある政府でも、人々に不当な利益誘導と暴力で対峙したら、青年・学生はとんでもない力を発揮することをたくさんの人々に知ってもらう必要があります。学校では教えないのだから、私たちが語り継ぎ、若者たちに「君たちの意思と力を信じなさい」と言い続けることが私たち元被告団の義務だと確信しています。本年3月25日日曜日に管制塔占拠がどうして成功したのかを語り継ぐ集いを行います。どうか若い人を連れて連合会館にご参集ください。

2、勝利を知った瞬間

40年前の3月26日午後3時半近く。私たちは、成田空港管制塔16F管制室で逮捕されました。それまでの約2時間、360°パノラマで第8ゲートから攻め入る青年・学生たち。横堀要塞で打ち振られる赤旗。警備本部の逃走によって指示が得られなくなった機動隊の右往左往。デモ隊に囲まれた空港。乱戦場と化した空港管理棟前の警官の銃乱射。飛行区域を完全に無視して飛び回る報道ヘリ。管理棟屋上で苦悩の表情を見せる空港公団職員。壊さないで一台だけ残したテレビに映し出された臨時ニュースと「ただいま成田空港管制塔が占拠されました」のテロップ。空港公団が管制室にかけてきた悲壮な声の電話に「ただいま占拠中です」と元気いっぱい答えている仲間。数十年の人生の中でもなかなか見られない“光景”でした。

しかし、占拠した自分たちが大勢はどうなったのか判断する材料がありませんでした。私たちを逮捕した機動隊が、「今日は完全に負けたよ」というまでは。

管制塔占拠は、“組体操”の頂点でした。

空港に反対する多くの人が成田空港を囲み、横堀に鉄塔が組立てられて反対同盟農民と先年たちが立て籠り、空港を包囲した青年・学生が第9ゲートから突入し、第8ゲートを突破し、管制塔占拠部隊を“高く舞い上げた”のでした。しかし、“組体操”の一番の土台は十数年大きな犠牲を強いられながら闘い続けた反対同盟農民と全国の人々の政府の横暴に対する声でした。土台の強さこそ、管制塔占拠部隊を“高く高く舞い上げた”力なのです。

3、2000人が管制塔に駆け上がった日

2005年3月、自民党政府・法務局が管制塔元被告16人に対し1億300万円の器物損壊にかかる損害賠償請求を強行してきました。最高裁判決から10年経ち執行時効寸前でした。3.26管制塔占拠の闘いで敗北した自民党政府は、空港建設に関する強硬策は取らないと宣言していたにも関わらずです。自民党政府の姿勢は全く変わっていないことを示した瞬間でした。損害賠償の強制執行は、明らかに空港反対運動の弱体化と反対同盟農民への威嚇が目的でした。

しかし、政府はそれから半年後にまた敗北したのです。今度の敗北は強烈でした。管制塔に2000人もの人々を登らせてしまったのです。

空港反対同盟と支援する人たちによるwebでの「管制塔元被告連帯基金」の呼びかけがなされると、次々と政府・法務局の暴挙を懲らしめる声とカンパが集まり出したのでした。この年の10月27日には損害賠償請求金額満額のカンパが達成されました。

満額達成させたのは2000人の心ある人たちでした。国土交通省に賠償金の支払いをした時の空港会社、国土交通省の役人、警備本部警察官の表情は、1978年3月26日、私たちを逮捕した機動隊の表情とそっくりでした。

2000人の農民・働く人々・青年・学生が管制塔占拠の勝利を守り抜いたのです。2005年10月27日、今度は2000人が管制塔に駆け上がったのでした。管制塔占拠の勝利は、より多くの人たちに共有されたのです。

4、「作物を育てるように」

政府自民党・成田国際空港会社は、成田空港「第三滑走路」計画、飛行時間の緩和を強行しようとしています。しかし、空港反対同盟と支援は一歩も引きさがりません。

「闘いも途中で決してあきらめず根気よく闘い続けてきた。作物を育てるのと似たようなものだ。……作物も今年ダメだったら来年があるように」と空港反対同盟世話人の柳川秀夫さんは闘いのありようを語っています。

この根気強い闘いと志が、ついには管制塔占拠を実現し、2000人もの人々を再び管制塔に駆け上がらせたのです。

半世紀に及ぶ空港反対同盟農民の闘いと大きな犠牲。管制塔占拠の闘いで亡くなった新山さんそして原さんの死、そして大量の逮捕者。大きな犠牲を払って実現した管制塔占拠の要因を何度も何度も振り返り確認し確信することが重要だと私たちは思っています。

いつの日かまた「管制塔占拠」に匹敵する闘いが生まれるまで、あの日の勝利の事実を語り継ぎたいと思います。

（前田道彦／元管制塔被告団）

＊　＊　＊

三里塚管制塔占拠闘争40年　今こそ新たな世直しを！　3.25集会

日時：3月25日（日）11：00～映画／14：00～現地報告ほか／17：30～懇親会

参加費：1000円（懇親会は別途2000円、要予約）

場所：連合会館・2F大会議室（新御茶ノ水駅）

戦争社会をつくりだすミサイル避難訓練：東京都心での実施に抗議行動

大西一平（やめろ！ミサイル避難訓練1・22緊急行動）

昨年３月から始まったミサイル避難訓練。ついに都心で初の訓練が、1月22日、文京区の後楽園駅周辺で行われました。昨年末の日程の発表を受け、急きょ実行委「やめろ！ミサイル避難訓練１・22緊急行動」が立ち上げられ、抗議行動が取り組まれました。

■前日の水道橋駅前リレートーク

訓練前日の21日には、11時半から13時まで水道駅東口駅前にて、リレートークを開催。総勢約60人の方が参加してくれました。発言順で、米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する実行委員会、自衛隊元レンジャー隊員の井筒高雄さん、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック、日韓民衆連帯全国ネットワーク、個人で参加された方、武器輸出反対ネットワーク（NAJAT）、米軍・自衛隊参加の東京都総合防災訓練に反対する荒川 - 墨田 - 山谷＆足立実行委員会、パトリオットミサイルはいらない！習志野基地行動実行委、差別・排外主義に反対する連絡会、沖縄への偏見をあおる放送を許さない市民有志、アジア共同行動（AWC）首都圏、戦争・治安・改憲NO！総行動、争議団連絡会議、神奈川県は戦争の危機をあおらないで！市民アクションなど、14人もの方々がアピールしてくれました。

最後にはサラムニシダさんという方が「お腹抱えて世界が笑ってる」というウマイ歌詞のＪアラートを批判する歌を披露してくれました。1月31日に県内全域でＪアラート放送訓練が行われる神奈川の方の発言からは、訓練の広がりとともに抗議の声の広がりも感じることができました。

■聞こえないＪアラート

さて訓練の当日は、報道によれば350人の町内会の住民や企業の社員が訓練に参加。事前に区が要請し動員された人々です。訓練場所は、後楽園駅、春日駅など文京シビックセンター周辺と後楽園遊園地。

10時直後にＪアラートが鳴動し、「ただいまミサイル発射情報が発表されました。屋外にいる方は落ち着いて近くの建物や地下道に避難してください」という放送が流されました。警察官や都の職員らが「ただちに地下に避難してください」などと住民らに呼びかけ始めます。住民らが文京シビックセンターに隣接する地下鉄駅構内や遊園地内の建物などに避難。今回も、頭抱えてしゃがむといったシーンが見られました。約10分後に「ミサイルが通過しました」という放送が流れ、訓練が終了という、茶番のような訓練でした。

マスコミのインタビューでは参加者からは「いい経験になった」という意見の一方で「こんなにスムーズにいくかなあ」などという声も多くあったようでした。訓練後の講評で内閣官房の末永洋之・内閣参事官は「訓練の目的は大きく二つ。一つは我が国にミサイルが飛来する可能性がある場合、どのような情報が届くかを確認してもらうこと。そしてもう一つは、Ｊアラートが鳴った場合にどのような行動をとるべきかを実地で体験、確認してもらうことです」と述べていました。まずは住民に訓練を体験させることが主催者としても目的だったのです。

■戦争する社会を準備するためのミサイル避難訓練

一方、私たち抗議行動の方は、前日に続き60名もの方々が参加してくれました。抗議行動は、水道橋駅に集合し後楽園方面に移動して情宣を行うグループと、シビックセンター付近でスタンディング抗議をするグループと、2つに分けました。情宣のグループは、白山通りを進み遊園地の入り口の前を通過した辺りで警察に一旦止められそうになりましが、制止を無視して後楽園駅の南側300mほどの場所、駅に続くコンコースの階段の下までは到達することができました。抗議のシュプレをあげながらＪアラートが鳴るのを待ちましたが、まったく聞き取ることができませんでした。おそらく国側も混乱を恐れて音量を小さくしたのでしょう。このことからも、とにかくやること自体が目的化され、既成事実をつくるための訓練だったことが分かります。

スタンディング抗議をしたグループは、シビックセンター前の歩道で、避難する参加者が並ぶ前で、プラカードを掲げ、抗議の声をあげることができました。しかし、一部には警察に腕をつかまれて追い出されそうになる仲間もいました。警察の妨害を糾弾したいと思います。

訓練にはマスコミや海外メディアも多く駆けつけ、私たちの抗議活動についても紹介した報道が通常より多くありました。準備期間も短く、急ごしらえの緊急行動でしたが、戦争訓練に反対する市民の存在をある程度は示すことができたのではないかと思います。急な呼びかけにもかかわらず、2日間にわたって多くの方々がご参加いただいたことにより、無事に抗議行動を成功させることができました。ありがとうございました。とはいえ、今後も、国は各地で、ミサイル避難訓練を実施していく予定です。戦争する社会を準備するためのミサイル避難訓練に各地で反対していきましょう！

『花咲くころ』
ナナ・エクフティミシュヴィリ&ジモン・グロス監督（2013年、ジョージア）

『ナチュラルウーマン』
セバスティアン・レリオ監督（2017年、チリ、米、独、西合作）

1991年、ソ連から独立したジョージア（グルジア）は内戦状態、暴力と混乱と不信が日常を覆っていた。「花咲くころ」の舞台は92年。14歳のエカの父はなぜか不在、親友ナティアの父はアル中で両親は喧嘩ばかり。二人は、パンを買うための殺気立った行列でもおしゃべりを楽しみ、学校の帰り道にエカに因縁をつける男子をナティアは追っ払う。ナティアには気になる彼、ラドがいたが、ストーカーのように愛を告白する別の男子に車に乗せられ、結婚することになる。

暴力がもたらす大人たちの荒んだ空気は、子どもたちを直撃する。それを14歳の少女たちの目線から描いた、切なく、美しく、そして力強い映像。ナティアの結婚式で踊るラドの姿から、何を感じるだろうか。

因襲と、現在の暴力的な構造とが、少女たちの伸びやかさを締めつける。ナティアのような「略奪婚」は珍しくないという。好きな人と結婚できず、親が結婚相手を決める状況とそこでの抵抗という意味では、トルコの姉妹たちの映画「裸足の季節」や、パキスタンの母娘の逃走＝闘争を描く「娘よ」も連想する。（グルジアの内戦については「とうもろこしの島」「みかんの丘」もあわせて観たい。）

一方、「ナチュラルウーマン」の舞台は、チリ。ウエイトレスをしながらナイトクラブで歌うマリーナは、年上の恋人で会社経営者のオルランドに、誕生日を祝ってもらう。ところがその夜、オルランドの具合が悪くなり急死してしまう。そこから、仲睦まじい二人の関係が、いかに受け入れられないのかが描かれていく。愛する恋人の葬儀に出てはいけないとオルランドの妻に宣告され、一緒に住んでいた部屋から追放され、事件性を疑う警察には身体検査を要求され……。

なぜマリーナは、偏見に満ちた視線にさらされ、侮蔑され、暴力を振るわれなければいけないのか。それはつまり、男は男らしく、女は女らしく／性別はキッパリ男女に二分され不可逆的・変更不可能で絶対的なもの／恋愛対象は異性しかありえないという常識の不条理を浮かび上がらせることになる。

だけどマリーナは、やられっぱなしではない。共感してくれる仲間もいる。暴風に立ち向かい、車の屋根の上でジャンプ！

そして歌う。

かつて、「女ならやってみな」という男女を逆さまにしたデンマーク映画（1980年代始め頃）に勇気をもらった。トランスジェンダーのマリーナは、性別や役割分業の固定概念を、身をもって乗り越える（しかない）。LGBTブームと言われ、NHKテレビドラマに「女子的生活」が登場する今、愛し合うとは？　家族とは？　を考えさせてくれる。

以上、憲法24条「両性の合意のみに基づく」にまつわるオススメ映画でした。

＊「花咲くころ」岩波ホール上映中、全国順次公開
＊「ナチュラルウーマン」2月24日公開、シネスイッチ銀座ほか公開

（大橋由香子／フリーライター）

『パレスチナの民族浄化』
イラン・パペ著・田浪亜央江、早尾貴紀訳
法政大学出版局
本体3900円+税

――国連パレスチナ分割決議によってイスラエル国家は誕生し、これに反発するアラブ諸国との間に生じた戦渦を避けるため、パレスチナ難民が生まれた。いまもテレビで流されるこんな作り話をアタマから洗い流すには、絶好の書が翻訳された。

英国の委任統治が終了した後のユダヤ人国家建設のために「できるだけ少数のパレスチナ人しかいないパレスチナをできるだけ広く獲得するというのが、シオニストの目標であった。」［第4章］この目標のために国連の分割決議直後から実行に移されたシオニストの「計画」とは、ユダヤ人入植者に対するアラブの人口比率を強制的に下げること、つまり占領した地域からのパレスチナ住民の大量追放だった。本書では、国連分割決議（47年11月）から半年後のイスラエル独立（48年5月）、そして英軍撤退後から翌年にかけてのさらに苛酷な作戦の「任務完了」［第8章］までの間に、シオニストの軍事組織とイスラエル軍がどのようにアラブ人を追放し（そのために拷問や殺害、レイプもおこない）、家屋を破壊し、パレスチナ社会を打ちのめしていったかが、主にイスラエル側に残る資料に基づいて克明に記されていく。1949年には分割決議を遥かに上回る土地を占領したままの国連に加盟するが、それでアラブ人に対する虐待や追放が止んだわけもなく、それどころか惨劇の跡地に、まるで何も起こらなかったかのような偽装を施す、「ナクバの記憶を抹殺する」［第10章］ための公共事業さえ行われてきた。昨年イスラエルが、西岸地区にある旧市街がパレスチナの歴史遺産として登録されたことを理由にユネスコを脱退したのも、これに連なった行為だろう。

著者はこれまで巧みに隠蔽されてきたこの「計画」を、民族浄化の歴史として描き直すのと同時に、当初は国連委任統治者たる英軍の眼前で、やがては「外国人記者や国連監視団が立ち会っていた現代の歴史的岐路で行なわれた犯罪が、これほど黙殺されてきたのはなぜなのか」［第1章］と問う。そしてパレスチナのナクバ（大災厄）を否定したまま続けられてきた和平プロセスこそ、結果としていまも拡張する入植地と分離壁だけを残し、パレスチナ人への世代を超えた抑圧と追放を今日まで許してきた原因であることを、最後の2章では簡潔に述べている。

昨年米大統領トランプがエルサレムをイスラエルの首都と認めると宣言し、それに強く反対する声明を出した英国のメイ首相だが、その一ヶ月前にはイスラエルのネタニヤフ首相とともにバルフォア宣言100周年を祝い、イスラエルという国家を生み出した英国外交を自賛していた。日本の現政権が外交だ、防衛だ、国際貢献だと宣う場合のお相手はみな、こんな土俵に立っているのだ。「人道に対する罪を忘却から救うことを責務と考える」イスラエルの勇気ある歴史家の著書を、多くの人にお勧めしたい。

（三井峰雄／印刷業）

反改憲ニュースクリップ

自民、3月党大会で改憲案提示か

2018年1月20日～2月16日

【1月21日】〈安倍発議〉自民党の柴山筆頭副幹事長が、３月25日に行われる党大会までに改憲案をとりまとめたい考えを示す。

【1月22日】〈施政方針演説〉安倍晋三首相が、通常国会開会にあたって施政方針演説を行う。憲法に関しては「五十年、百年先の未来を見据えた国創りを行う。国のかたち、理想の姿を語るのは憲法です。各党が憲法の具体的な案を国会に持ち寄り、憲法審査会において、議論を深め、前に進めていくことを期待しています」と呼びかけ。これを受けて、公明党の山口那津男代表は「白紙で臨む。憲法審査会の議論がどうなるかをよく見て対応を考えたい」。

【1月24日】〈自民〉青山繁晴参院議員ら自民党国会議員有志10人が会内で会合を開き、９条について、戦力不保持を定義した２項を維持して「自衛権」を明記する新たな案をまとめる。青山は会合後、「諸外国でも武力組織の固有名詞を明記した憲法はない」と指摘。／自民党の二階俊博幹事長が立憲民主党の枝野幸男代表に関して、「どうだこうだと酷評するほど、あの人らが憲法問題に詳しいとは思えない」。

【1月25日】〈緊急事態条項〉自民党の憲法改正推進本部が、緊急事態条項をめぐる党改憲案に関し、国民の私権制限を見送る方向で最終調整に入る。国会議員の任期延長に限定して意見集約したい考え。

【1月26日】〈自民〉党憲法改正推進本部が執行役員会を開き、党改憲案の策定を３月25日の党大会までに目指す方針を確認。

【1月28日】〈安倍発議〉自民党の石破茂元幹事長がBS朝日番組に出演。「交戦権の内容をきちんと詰めて、使えるようにするのは今をおいて他にない」と述べ、９条２項を削除するよう求める。

【1月31日】〈安倍発議〉安倍首相が参院予算委で、「最終的に国民投票で決める。国民が権利を実行するため、国会で真摯な議論を深めることが必要で、私たちにはその義務がある」と答弁。**〈安保法訴訟〉**集団的自衛権の行使を可能にした安全保障関連法は違憲だとして、茨城県の陸上自衛官が「存立危機事態」での防衛出動命令に従う義務がないことの確認を求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁が、門前払いした一審判決を取り消し、審理を東京地裁に差し戻し。

【2月1日】〈緊急事態〉公明党の北側一雄中央幹事会会長が、自民改憲推進本部が昨年末に論点を整理した緊急事態条項の新設をめぐる２案のうち、私権制限について否定的な見解を示す。国会議員の任期延長については「議論に値する」。

【2月6日】〈安倍発議〉安倍首相が衆院予算委で、改憲で９条に自衛権の範囲を明記することについて「一つの考えとして十分成り立つと思う」と述べる。希望の党の今井雅人議員への答弁。／自民党の高村正彦副総裁がBSフジ番組で、党の９条改正案に文民統制の明記を検討していることを明らかに。**〈公明〉**山口代表が「国民は憲法改正のいかんにかかわらず、自衛隊を合憲的な存在として容認している」と述べる。

【2月7日】〈自民〉党憲法改正推進本部が全体会合を開き、９条改定案づくりに着手することを決める。党所属議員から10日間程度で条文案を募り、考え方が近いものを整理して月内にも提示する方針。

【2月8日】〈安倍発議〉自民党の高村副総裁が講演。「自衛隊を書くと、集団的自衛権（行使）の限定容認が合憲になる、（戦力不保持を定めた）２項が空文化されると言う人がいるが、そういう書き方はしない。平和安全（安保）法制が合憲か、という神学論争は残る」。／安倍首相が自民党の２回生衆院議員20人と会食し、「日本という国家を後世に引き渡していくためにも、必要な憲法改正の議論に率先して参画してほしい」と呼びかけ。

【2月11日】〈自民〉石破元幹事長がラジオ日本番組で、立候補に意欲を示す秋の党総裁選で、９条を中心に改憲の在り方を争点にしたいとの考えを示す。

【2月13日】〈教育無償化〉希望の党が憲法調査会の会合を開き、細野豪志憲法調査会長が、義務教育の無償を定めた憲法26条改正案のたたき台を示す。乳幼児教育から高校まで無償化を規定。

【2月14日】〈安保法〉現職自衛官が安全保障関連法は違憲と訴えた裁判で、国が「国際情勢に鑑みても存立危機事態の発生を具体的に想定しうる状況にない」と主張していることについて、立憲民主の枝野代表が衆院予算委で「二枚舌」と批判。**〈敵基地攻撃〉**安倍晋三首相は14日の衆院予算委員会で、「技術の進展で脅威が及ぶ範囲は、侵攻してくる（敵国）部隊の周囲数百キロ以上に及ぶ」と述べ、長射程巡航ミサイル導入の必要性を強調。2018年度予算案に航空自衛隊の戦闘機に搭載する長射程巡航ミサイル導入の関連経費約22億円を計上した。このミサイルは敵基地攻撃への転用が可能。

【2月15日】〈民進〉民進党の大塚耕平代表が、党憲法調査会長に中川正春元文部科学相を充てると明らかに。

【2月16日】〈合区解消〉自民党憲法改正推進本部全体会合を開き、参院の合区解消に向けた改憲条文案の素案を示す。選挙の実施方法を定めた47条に、選挙区の設定に関して「人口を基本とし、行政区画、地域的な一体性、地勢等を総合的に勘案し」との文言を追記するのが柱。全体会合は素案を了承し、文言修正を細田に一任。自民の改憲４項目で初めて条文案固まる。**〈公明〉**党憲法調査会の全体会合を昨年６月以来、約８カ月ぶりに開く。北側一雄会長が「我が党のこれまでの論議、憲法審の議論、最近の各党の状況を勉強したい」とのべ、特定の方向性を示さない姿勢を明確に。**〈国民投票〉**市民団体「〈９条３択・国民投票〉の実現をめざす会」が、９条に関する「模擬国民投票」を主催。**〈9条改憲〉**時事通信の２月の世論調査によると、憲法9条改正は、「2項を維持した上で、自衛隊の存在を明記すべき」が35.2％で最多。次いで「9条を改正する必要はない」が28.1％、「２項を削除し、自衛隊の目的・性格をより明確化すべき」が24.6％。

集会・行動情報　3/ 8 ～ 3/31

▶3月8日(木)国際シンポジウム　3・11を忘れない～核なき未来へ向けて◆文京区民センター3A（地下鉄春日駅・後楽園駅）◆昼の部：14：00～17：00◆福島の今とエネルギーの未来　特別報告：飯舘村はいま　長谷川健一（酪農家）／避難・保養・健康問題　満田夏花、矢野恵理子／日本におけるエネルギーシフトの現状　吉田明子◆夜の部：18：00～◆核なき世界へ向けて　川崎哲（ピースボート）◆脱原発を勝ち取った人々の力　ヤン・ウォニョン（韓国環境運動）、洪申翰（台湾緑色行動連盟）◆参加費：昼の部800円、夜の部800円、通し券1000円◆FoEジャパン

▶3月11日(日)事故から7年　追悼と東電抗議　東京電力は福島原発事故の責任を取れ！第54回東電本店合同抗議◆13：30～15：00◆東京電力本店前（JR新橋駅、地下鉄内幸町）◆呼びかけ：経産省前テントひろば、たんぽぽ舎

■さよなら原発関西アクション　再稼働やめて！核燃サイクル中止◆エルおおさか大ホール（京阪・地下鉄天満橋駅）◆800円◆講談：神田香織「チェルノブイリの祈り」◆講演：海渡雄一「原発・核燃の破綻」◆デモ15：50◆さよなら原発関西アクション

▶3月12日(月)9条改憲阻止！朝鮮半島で戦争はさせない！戦争・治安・改憲NO！霞が関デモ◆18：00◆日比谷公園霞門～法務省、警視庁、警察庁、裁判所、総務省、外務省、財務省、経産省、文科省、厚労省に抗議～日比谷公園解散（19：30）◆戦争・治安・改憲NO！総行動実行委（9条改憲阻止の会ほか）

▶3月13日(火)再処理とめたい！首都圏市民のつどい連続講座第2回「日米原子力協定を考える」◆18：30◆連合会館501会議室（JR御茶ノ水駅、地下鉄新御茶ノ水駅・小川町駅）◆①講師：長澤裕子（東大大学院総合文化研究科）「1950年代米国の原子力利用計画とアジア」②講師：松久保肇（原子力資料情報室）「日米原子力協定の現状と問題点」◆資料代800円◆再処理止めたい！首都圏市民のつどい

▶3月16日(金)天皇の沖縄への「慰霊の旅」と与那国島訪問について考える3・16集会◆18：45◆練馬区厚生文化会館（西武線・地下鉄練馬駅）◆講演：大仲尊（沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック）◆アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える・練馬の会

▶3月17日(土)2018原発のない福島を！県民大集会◆12：00オープニング、12：30開会◆天神岬スポーツ公園（楢葉町）＊いわき駅、竜田駅からシャトルバス◆同集会実行委

▶3月19日(月)安倍9条改憲NO！　安倍政権退陣！国会議員会館前行動◆18：30◆衆院第2議員会館前を中心に◆戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委、安倍9条改憲NO！全国市民アクション

▶3月21日(水・休日)いのちを守れ　くらしを守れ　フクシマと共に　さようなら原発3・21全国集会◆代々木公園B地区◆11：30出店ブース、12：30野外ステージスタート、13：30集会開始◆発言：鎌田慧、落合恵子、福島から：ひだんれん、被ばく労働者から、避難者から、戦争させない・9条壊すな総がかり行動実行委◆「さようなら原発」1000万署名市民の会　協力：戦争させない・9条壊すな総がかり行動実行委

▶3月24日(土)止めよう！戦争への道2018関西のつどい◆13：30～16：00◆エルシアター（京阪・地下鉄天満橋駅下車）◆講演：柳沢協二◆辺野古基地建設は許さない：安次富浩◆共催：大阪平和人権センター、しないさせない戦争協力関西ネット、戦争をさせない一〇〇〇人委員会・大阪

▶3月25日(日)1978：3・26三里塚管制塔占拠闘争40年　今こそ新たな世直しを3・25集会◆連合会館2階大会議室（JR御茶ノ水駅、地下鉄新御茶ノ水駅・小川町駅）◆第1部11：00～13：30「三里塚のイカロス」上映、第2部14：00～16：00現地からの報告：発言、第3部17：30～19：30懇親会◆主催：三里塚芝山連合空港反対同盟（柳川秀夫代表世話人）、元管制塔被告団◆参加費：1部＋2部　1000円　3部：2000円（要事前申し込み）

■「平成」代替わりの政治を問う連続講座　第4回　明治150年式典・キャンペーンと「生前退位」◆13：30開場◆ピープルズ・プラン研究所会議室（地下鉄江戸川橋駅）◆問題提起：太田昌国、伊藤晃、天野恵一、司会：松井隆志◆参加費800円◆ピープルズ・プラン研究所

▶3月27日(火)再処理止めたい首都圏市民のつどい連続講座第3回「話芸で学ぶ「核とビキニ事件」◆18：30◆連合会館501会議室（JR御茶ノ水駅、地下鉄新御茶ノ水駅・小川町駅）◆講談「ゴジラ誕生」田辺一乃（講談師）◆資料代800円◆再処理止めたい首都圏市民のつどい

▶3月31日(土)3・11と東京五輪：アンダーコントロール？　復興？◆小出裕章（元京都大学原子炉実験所）、佐藤和良（いわき市議）◆13：00開場◆文京区民センター2A（地下鉄後楽園駅・春日駅）◆オリンピック災害おことわリンク

■国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展
「ふるさと、奄美に帰る」
3月10日（土）～31日（土）　奄美文化センター
4月3日（火）～10日（火）　国立療養所奄美和光園
4月20日（金）～5月13日（日）　田中一村記念美術館
◆入場無料◆「ふるさと、奄美に帰る」実行委員会

▶「反改憲」運動通信：1部 400円（月1回発行／第13期：2017年6月～2018年5月）
▶事務局・連絡先：〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町1-21-7　静和ビル2A　淡路町事務所気付
▶Fax：03-3254-5460　▶住所変更などはハガキでお願いします。
▶年間定期購読料：印刷・郵送4000円／ PDF・Eメール3000円　▶郵便振替：00190-7-11558「反改憲」運動情報通信